

# サンホセ日本人学校（小規模校）における特色ある教育活動

— 魅力ある学校づくり・・・身近な人材の活用を通して —

前サンホセ日本人学校 校長

船橋市立古和釜中学校 校長 野 中 栄 生

キーワード：教育活動の工夫，国際交流，人材活用

## 1. はじめに

### (1) 中米の小国 コスタリカ

#### ① コスタリカ共和国のあらまし

1821年にスペインより独立し、北緯10度、西経85度、パナマとニカラグアにはさまれ、東にはカリブ海、西には太平洋と2大洋にはさまれた小国家である。面積は日本の九州と四国を足したほどである。

人口は430万人（2004年）で、首都サンホセに30万人が住んでいる。95%がスペイン系白人で他はアフリカ系、インデヘナス、中国系などである。

公用語はスペイン語で、宗教はカトリック系が85%である。



#### ② 近年のコスタリカ

コスタ（海岸）リカ（豊かな）という国名のように、自然豊かな美しい国である。主要産業は、コーヒー、バナナ、さとうきび等の第一次産品であったが、近年ハイテク産業や観光が主要な外貨収入を得る産業となっている。特に大きな話題となっているのが「エコツーリズム」である。映画「ジュラシックパーク」の舞台ココ島は、コスタリカの太平洋側にある自然豊かな無人の国立公園である。また、軍隊を持たない国として政情は安定しており、義務教育を無償とし、平和教育や環境保護教育にも力を入れている。

### (2) サンホセ日本人学校（平成19年度）

首都サンホセ近郊、モラビア市（海拔1100m）に33年前に開校した。小・中あわせ22名の児童生徒が在籍している（在留邦人と日系企業の子弟、大使館職員と教職員子弟、在留邦人と現地人との間に生まれた子弟【日本人会の会員であることが前提】）。

教職員は、派遣が8名（校長を含む）、現地採用職員が1名、現地人語学スタッフが2名である。



サンホセ日本人学校全景

## 2. 活動の実際

### (1) 教育課程の工夫

小中とも1単位時間を45分授業とし、毎日6時間（月～金）で授業を組んでいる。登下校は、スクールバスを利用している（毎日午後3時には一斉下校）。

50分授業ではない中学部に若干心配があるが、小規模校ゆえの能率の良い授業、授業時数の確保をしっかりとすることでやり残しはない。メリットは小中一貫教育に近い同時授業や行事の享有、特に午前中の業間休みの健康作

り（アニモタイム）は、子供達にも保護者にも好評である。家庭的な現在の校風を維持することで一致している。

- ① 小学校は基本的には担任制だが、一部技能教科などは教科担任制を導入し、体育、音楽、家庭、美術、書写、生活科などではできる限り複式で実施している。
- ② 小学部低学年はコマ数の関係で空きの時間が生じるが、教職員配偶者や現地人語学スタッフのご協力を頂き、読書、読み聞かせ（スペイン語・日本語）、校内散策などの多目的な時間を創造している。基本的な生活習慣を身につけさせる上でも非常に有効であった。
- ③ 登校が早い（7：25）ので、朝の時間を有効に活用し読書タイム、帰りの短学活では、各教科などのスキル学習などを習慣化した。

## (2) 行事の工夫

### ① 宿泊学習「4年サイクル」

中学部は、2泊3日。小学部は、一日遅れて出発1泊2日

現地理解（生活と産業、自然と環境、生態）と集団生活のルール、マナーなど社会性を身につけさせる。移動はスクールバスを利用している。

#### 1年目 カリブ海側低地

アース大学（国際的な農業指導者養成の大学）広大な敷地に各種の農場日本人技術者も指導。バナナ園、バターチーズの工房、有機肥料の研究。乗馬体験。敷地内には、多くの動植物（ナマケモノなど）と宿泊施設。  
平成15年度・19年度実施

#### 2年目 太平洋側の高原地帯・キャンプ場。現地校との交流。

平成16年度実施

#### 3年目 太平洋側の山岳地帯・金鉱（廃坑）探検、コーヒー工場見学、温泉宿泊

平成17年度実施

#### 4年目 太平洋側海岸リゾート・観光事業、水産試験場、水族館、ウミガメの放流

平成18年度実施

※ 全てJICA海外青年協力隊の支援を頂く。協力隊の紹介、現地案内、通訳等

### ② 日本人会との合同大運動会（1月最終日曜日実施）

総勢150名あまりの日本人及び日本人会会員が一同に会し、紅白に分かれ汗を流す。例、騎馬戦（騎馬は保護者）綱引き（児童生徒・男性の部・女性の部）などである。

### ③ EPT 音楽祭 6月・球技大会 7月・餅つき大会 12月

EPTとは「ESCUERA PARA TODOS =学校はみんなのために」という意味である。

日本人学校と日本人会の連携にて実施している。

※在コスタリカ大使も参加されている。過去に日本人学校が中心となって始めたいきさつから本校職員及び家族は準備に、当日運営に全員参加でフル回転している。いずれも100名を超える参加を得て盛会であった。

## (3) 国際交流

### ① 独立記念パレード参加

姉妹校のサンアンソニー校の招待を受けて、モラビア市の独立記念パレードに全校鼓笛隊を組織し、毎年参加している（治安の悪化によりH20年度より見直しが検討される）。

② サンアンソニー校（姉妹校）との定期交流

スポーツ交流（相互）では、サッカー、剣道、ホッケー、陸上に取り組んでいる。

授業交流（相互）では、体育、音楽、美術他で共に学んでいる。

そのほか、IN（インターナショナル）デーに招待するといった交流も行っている。

③ アウロラ校「音楽・民族舞踊」との文化交流

エレディア県のダンス優秀校であり、H19年から交流している。オープンスクールにし、保護者にも参加していただき、コスタリカの音楽・舞踊を体験する。



アウロラ校との民族舞踊交流

④ 養護学校訪問（福祉体験）

主に海外青年協力隊員が派遣され活動している学校で、車いす体験や手話交流、折り紙交流等を行っている。

(4) その他（人材の活用等）

① 生活科の授業やINデーの保護者・お年寄りの参加を呼びかける（昔遊びや日本文化紹介）。

② 現地進出企業（ジェトロ＝トヨタ通商・パナソニック・丸紅・ティカテックス・SAKATAのタネ他）や在留邦人、JICA職員、大使館員、保護者の皆さんによる授業講師、資料提供等に協力してもらう（理科、社会、環境教育（植生や水）、平和教育（戦争体験）、貿易他）。

③ 社会見学

国会、テレビ局、裁判所、国立劇場、水道局、動物園、インビオパルケ、博物館、日本人経営の種苗農園、プラネタリウム等の見学を行っている。

④ 幼稚部が変わるものとしてあいうえお教室（就学前教育、週に一回・一時間半）

国語・算数・基本的な生活・音楽等を行う。

※講師は、複数の教職員配偶者をお願いしている。

⑤ 授業の講師や特別活動の補助、音楽科講師、書写講師、式歌等ピアノ伴奏・生活相談（主に女子児童生徒対応）・宿泊学習引率ボランティアとして、校長配偶者及び教職員配偶者をお願いし、家庭科（調理）ボランティアとして、JICAシニア隊員夫人をお願いしている。

⑥ 国立管弦楽団のゲネプロ見学、日本人常任指揮者、首席バイオリニストによる解説

⑦ 創立記念講演 10月1日 歴代学校運営委員長、日本人会長、PTA会長等

### 3. 終わりに

中南米の小規模日本人学校の多くは、児童生徒の減少と合わせて派遣教員の定数減、学校経営上の諸問題など課題が多い。それぞれ様々な経営努力、教育課程の工夫により、できる限り児童生徒に不利益がないよう特色ある教育活動を展開している。

幸い本校は、日本人会が所有する広大な敷地と校舎が確保され、老朽化等新たな課題はあるものの学校の施設管理、運営面では恵まれている。そこで、子供の減少と共に大きな課題は、指導者の確保ということになる。当然、毎年人事異動の時期になると一喜一憂しながら教育の質を下げずにしっかりと教育課程を組むことに腐心する。前述の2. 活動の実際にもあるように私が在任した間、常に心がけたことは、地域（現地）の教育力の活用である。増員を求める要求書に対し、かろうじて現状維持（小中8学級に対し、校長を除く派遣教員は7名）中学部の1、2年生複式で対応した。それ以上の教員の増員は、現地で採用をとということであるが、会員150名足らずの日本人社

会でそれをかなえることは、人材の面からも費用の面からもほとんど不可能である。皮肉なことに子供が増えることを強く望む半面、今空いている学年に年度の途中に転入がないことを祈る始末である（当然、万が一に備えて対応策は考えてはいる）。平成18年度末には予測はされていたことではあるが、唯一の女性教員（音楽）が帰国した。そこで、これまで同様、在留邦人他の教育力を可能な限りとり入れると同時に、教職員配偶者を適材適所、学校教育活動に取り込み、その専門性をできる範囲（個人差のないように週1時間から2時間程度）で活用させていただいた。もちろんご本人はもとよりご主人である教職員の理解と、学校運営委員会の指導のもとにである。合わせて、できる限り学校の中に保護者も含めた女性の姿があるようにし、女子児童生徒のケアにも配慮した。今、考えるととても強引であったかと思うが、さらに派遣教員が1名減となった平成20年度（幸い女性教員は一名復活）も、引きつづきご協力いただいているとのことである。本当に夫唱婦隨の派遣に頭が下がる思いである。しかし、その運営にはおのずと限界がある。海外における日本人子女の教育を受ける権利が、その規模にかかわらず日本国内と同等に保障されることを願ってやまない。